

## #07 「発信力を磨いて福祉を変える医療を変える

～現場から・ジャーナリストから・行政から～

(医療福祉ジャーナリズム特論)

第3回 田邊順一先生

「レンズを通して見た光と影～老いと心の病の人たちとの出会いの中で～」

12S2020 小田原キャンパス レクワーカー 小出 好 (こいでこのみ)

田邊先生、ありがとうございました。

先生の語り口は、本当に優しく「仏様のように思った」のは私だけでなく、レンズを向けられたお年寄りの方もきっとそう思ったに違いないと、思いながら小田原キャンパスから画面を通して、先生を見つめていました。

お年寄りはレンズを向けられても自然に、身構えることもなかったのでしょうか。

むしろ、いい表情をされていた方もいらっしゃいました。

先生は50年に渡り、お年寄りに目を向けられ「老い」を通して「生きるとは」を写真で追及し続けていると、レジュメにありました。先生の人生の大半を、老人を撮り続け、著書もたくさん出されています。ただ撮影するだけの写真家ではありませんね。写真を通して発信されていることが、よくわかりました。この乃木坂スクールのテーマである『発信力を磨いて福祉を変える医療を変える』そのものだと思います。

たくさん写真の中から、多くの方のことをお話ししてくださいました。

聴き取りが悪く、間違えている場面もあるかと思いますが、申し訳ありません。

### ・90歳の学者さんのもくべいさん

「長生きのコツは恋愛」「小説を書く作家さん一等賞500円(今の1000万円)」

「100歳は折り返し点」

### ・92歳のトキさん

「6畳一間に娘さんと高2のお孫さんの3人暮らし」「ボケてきて老人病院に入ったら口を利かなくなり3週間後に急性肺炎で亡くなる」

### ・92歳の横山さん

「64歳の息子さん(町工場)が介護していた」「全身褥瘡になり、入院してから昼夜逆転」

「入院は経済的に無理」「家で介護することになる」「ガーゼ400枚を使って息子さんとお嫁さんが手当て」

### ・ぽっくり寺・ぽっくり参り

「下の世話にならずにぽっくりいけると1975年ごろ全国のあちらこちらで流行る」「お礼参り(しゅうとめがおかげさまでポックリ逝ってくれました)」

### ・川崎の宮本さん

「奥さん（筋ジス）と二人暮らし」「家のことすべてやっていた」「脳卒中の発作で左半身マヒ（一か月入院）」「その後一人暮らし無理で老人病院に入る」「柳こおりに全部大事なものも入れてくる」「必要ないと捨てられる」「オムツにすると言われ、尿瓶でとると抵抗するが、捨てる人間がいないとオムツにされる」「あっという間に亡くなる」

・ **流れ作業の中の青木さん**

「千葉県に出来たばかりの老人病院に入る」「オムツの交換は一日に4回と決められている」「男女一緒の部屋」「カーテンもない」「流れ作業」「腰をひもで縛られている」「田邊さんがほどこうとすると、何をされるかわからないから、そのままが良いと言う」

・ **1982年 静養室という名の独房。**

「静養室とよばれ認知症独特の行動をした人が入るまさに独房のような部屋」「認知症を知らない」「食事中に薬を飲ませる」

・ **八王子の山の中の認知症の方々の「山水園」**

「田邊先生はずっと通って写真を撮っていた」「宮本さんという人は起きている間、ずっと歩いていたが、ある日両手を縛られ寝かせられていた」「つなぎ服を着ている人あり」「廊下で寝ている人あり」「男女一緒の入浴」「どこでもおむつ交換」「田邊先生は、ホッとすると、自分らしく今生きる自分を受け入れてもらえる」「自分らしく生きること」

・ **中村さん**

「若い頃米軍に勤める」「カメラ好き。お城の写真を撮り続ける」「月に2回は床屋さん」「ある時から行かなくなった。ボーボーになって商店街の人驚く」「民生委員は施設に入れるよう働く」「中村さんはいやだ。動きたくない」「風邪をこじらせ入院し、一人暮らし心配で納得する」「民生委員や家主さん、元同僚などが家の掃除をする」「周りの協力で支えられるのではないか」

◎ **写真を撮ることは他人の家に足を踏み込むこと。撮らせてもらうにはコミュニケーション。人権を大事にすること。**

◎ **文章より写真の方が人を動かす。**

◎ **シャッターを押す時は、良いなと思った時。感じる時。**

◎ **白黒写真なのは、表現しやすくなる。内面を表す。カラーは邪魔をする。**

写真と一緒に、お話しが蘇ってきます。私の職場も介護老人保健施設ですので、毎日お年寄りと接しています。田邊先生のように、心を開いてくれるようにこれからも接していきたいと思います。一人ひとりが自分らしく生きることができるよう。